●阿武隈川の砂州消失

【経緯】

阿武隈川河口部は、右岸側に砂州が形成されていました。そこには、ハマヒルガオやコウボウムギなどの海浜植物（海の砂浜に生育する植物）が生育し、右岸の堤防沿いには、ヨシ・オギ群落やオオイタドリ群落などの植生が観察されていた他、汽水・海水魚、メダカやコイ科などの純淡水性の魚類の生息も確認されていました。しかし東日本大震災により、この砂州は消失しました。

震災前後の阿武隈川の砂州

【活動成果・状況】

現在、河口テラスや砂州が徐々に元に戻りつつあります。 砂州では動植物はあまり確認されていませんが、左岸高水敷においてはヨシ等の植生が繁茂してきており、草本類を中心に植生が増えてきています。

以下に、震災前（平成 15 年～平成 21 年）と震災後（平成 24 年）の比較による動植物の確認状況について紹介します。

動植物の確認状況（震災前後）

確認種	状況
魚類	海から見て河口部右岸の砂州周辺で確認されていたコイ科やナマズ科などの純淡水魚の減少が認められました。
底生動物	震災後は、震災前と同様に汽水・海水性の種が主体に確認されています。
植物	河口部右岸砂州に生育していた植生は津波により流失し、確認されていたハマボウフウやハマナスなどの砂浜に生育する種は、震災後には未確認です。また、塩水の影響を受けにくい場所に生育するヤナギ科やタデ科などの水辺に生育する種は減少が認められました。
鳥類	震災前後での鳥類相に大きな変化はなく、左岸高水敷に繁茂したヨシ原ではオオヨシキリやホオアカ等が利用する様子が確認されています。
両生類・爬虫類・哺乳類	モグラ科やニホンアカガエルは未確認であるが、左岸高水敷において、移動能力の高いキツネやタヌキ、ネズミ類が確認されています。
陸上昆虫類	確認種を比較すると、確認種数は大幅に減少しています。ただし、主に左岸高水敷では、オサムシ科やアリ科、テントウムシ科などの一部の昆虫類の仲間は、地震前と近い種数が確認されています。

福島河川国道事務所 HP　http://www.thr.mlit.go.jp/fukushima/

（第 8 回阿武隈川水系河川整備委員会資料「阿武隈川水系河川整備計画の変更について」より）